

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4290500216		
法人名	合同会社 明和会MCS		
事業所名	グループホーム花みずき		
所在地	長崎県大村市上諏訪町1231-1		
自己評価作成日	平成 30 年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	平成 31年 1月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 30年 12月 7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

上諏訪地区の住宅街の一角にあり、施設からは、市内を見渡せる程、景観に恵まれている。医療機関が母体である為、入居者の緊急時の対応を始め、週1回の訪問診療を始め、理学療法士・作業療法士によるリハビリ評価、運動指導士による体操、管理栄養士による栄養指導等、多岐に渡り、病院からの支援を受ける事が出来ており、入居者により安心・安全のサービス提供が出来ている。小規模で家庭的な生活環境の下、低下した認知機能をサポートしながら、入居者の自己決定を支援し、生活支援を中心としたケアを実践、家族のニーズをも踏まえたサービス提供に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは大村市の高台にある住宅地の一角に位置し、眼下には大村市内をゆったりと眺めることのできる住環境となっている。ホーム新体制となり3年が経ち、職員は入居者が気持ち良く過ごせる空間づくりのための住環境の整備並びに職員の職場環境の整備に取り組まれている。職員は入居者と同じ時間を過ごしながらかその方の思いに寄り添った支援に努め、現状の把握や信頼関係の構築、入居者の新たな可能性を見出すケアの充実に向けて取り組まれている。ホームでは内外ともに研修の機会も多く、職員間で忌憚のない意見を出し合いながら積極的に運営に関わる様子も窺われる。また、家族や地域との顔の見える関係づくりを大切にすることによりホームとの距離感が近くなり、今では運営推進会議や行事などに気軽に立ち寄っていただける関係性となっている。入居者に寄り添いながら住み慣れた地域で地域住民の一員として活動の幅を広げる様子を、今後ますます期待の持てる事業所と言える。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	清潔で明るい環境、笑顔と優しさが溢れるスタッフ、入居者のペースで楽しく過ごせる様に支援する、を理念とし、常に安心安全の生活環境が提供出来る事をモットーに職員一丸となって業務を行っている。	職員は、入居者が気持ち良く過ごせる空間づくりのための住環境の整備並びに職員の職場環境の整備に取り組んでおり、3年前からの運営体制の変更に伴い新たな理念をホーム共用空間に掲げている。全体ミーティングや日々の話し合いにおいて職員間で支援の方向性を確認し、理念の浸透に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2カ月の一度の運営推進会議に町内の会長様を始め常時3名の方に参加いただいております、事業所運営に理解を頂いています。又、町内回覧、ごみ当番や事業所内イベントへの案内等を通し、地域密着型の施設として、地域交流に努めている。	職員は行事や運営推進会議の案内などを地域住民へ手渡しするとともに、地域の行事へ足を運ぶなど地域との顔の見える関係性を大事に捉えていることが窺える。また、ホーム敷地を開放し地域の方が気軽に行事や散歩など立ち寄れる環境が整っており、地域とホームの距離感が縮まっている様子が窺われる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区公民館を活用した敬老会及びランチ会等の実施に当たり、地域の方の協力を得ており、運営推進会議を通して認知症の方への理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束適正化委員会の報告及び事業所内でのヒヤリ・ハット、事故等の報告を毎回実施する事で事業所の取り組みについて具体的に説明し市職員、地域住民からの意見を参考に、業務に生かす事が出来ている。	運営推進会議には地域住民を始め家族などの参加があり、入居者の暮らしぶりや現状を具体的に説明しホームへの理解が図られている。会議では地域からの問いかけにその都度状況を伝え、支援方針やホームの理解に繋げている。また、敬老会の際の地域の公民館利用や周辺道路の相談について話し合われるなど情報交換の機会としても活用されている。地域がホームを知るきっかけや地域の一員として受け入れていただけるよう努めていることが窺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2カ月に1度の運営推進会議の開催、認知症グループホーム連絡協議会の出席を通じ、事業所の実情を報告し、意見をいただく事で、現場運営に生かし、協力関係構築に努めている。	ホームは、運営推進会議を通して市担当職員にホームの現状を伝え理解していただけるよう努めている。担当職員とはホーム運営に関する相談や制度上の助言を受けるなどしており、今回ヒヤリハットの活用方法について助言を受け運営に取り入れられている。管理者は地域の関係者としての立場から課題に早急に対応できるよう関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の定期的な開催に伴い職員への情報共有と、A棟B棟合同定例会の開催時に研修を実施している。職員全員が「身体拘束をしない介護」に向けて、最大限の努力を行い、サービスの質の向上に努めている。	ホームでは身体拘束適正化委員会を中心に指針の理解や現状の確認を行い、身体拘束をしないケアの実現に取り組まれている。現在該当する方はいないが、定期的な委員会の開催と研修の機会を設け、今回はスリーロック(身体拘束やスピーチロック(言葉による拘束)、ドラックロック(薬物による拘束))について話し合いを行っている。職員は身体拘束をなくす対応についてその都度検討し、気付かないままに行動抑制に至っていないか振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者事業所における「虐待とは」の理解を深める為、看護師を中心に、勉強会の開催を行い、業務中の如何いう事が虐待に当たるのかを徹底して理解し、業務中の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所全体として、十分に理解できているとは言えない。合同定例会時に、制度理解のための資料を作成し、ご家族への説明を含め、今後の課題としたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、関係書類の丁寧な説明と、事業所利用にあたっての細部について、利用者、ご家族の安心に繋がるような説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、苦情、意見等の受付窓口があることを伝え、常時受付体制がある事を説明している。訪問時、頂いた意見については、職員間で検討、情報共有し、現場運営に生かしている。	職員は家族へホームの支援状況を知っていただきたいとの姿勢で関わりを持っており、面会時には日頃の入居者の暮らしぶりを伝えながら入居者や家族と身近な存在になれるよう努めている。敬老会では出し物を披露いただくなどホームの運営に協力的な家族も多く、家族間の親睦と開かれたホーム運営を目指し取り組まれていることが窺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会を通じ、意見、提案の共有を行い、検討したうえで、運営に生かしている。個々の職員については、年に2回の面談を行い、新人職員については、1年間を通じて小まめに面談を実施している。	職員は手に取りやすい位置に付箋を準備し、多くのヒヤリハットの集約に繋げている。互いに支援内容を確認し、積極的な意見交換を行いながら業務内容の改善に繋げている。職員それぞれが運営に参加しているという意識を持ち、職員相互の経験や知見を認め合いながら更なる質の向上に向け日々取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から、職員が意見を出しやすい環境づくり、職員把握に努めている。勤務態度や言動、態度には、関心を持ち、働き易い職場環境に努めている。待遇改善については、毎年的人事考課により業務評価を行い、待遇に反映出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市、及び関連事業所からの研修案内を生かし、職員の意向を聴取した上で、研修参加を実施している。又、母体である病院から、リハビリスタッフの協力により、勉強会を実施し、介護職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会(管理者)、各駅停車(職員)への参加を行い、情報交換を行い、運営に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の情報収集を行い、状況把握に努め、入居者の嗜好を大切にし、自分らしく安心して生活できるよう、日々の状態観察を怠らず、適切な支援を行う事により、入居者との関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の訪問時やイベント開催の参加時に、ご家族に寄り添い、要望、困りごと等について伺い、利用者のより良い支援に向けて共に話し合い、理解を得られるよう、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規サービスを導入する際は、入居者にとって必要なサービスであるかを見極め、ご家族の理解を得た上で、サービス導入に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のレクリエーション、体操、散歩等を通して、共に生活している実感を得てもらい、可能な限り相互のコミュニケーションが取れるよう、職員が介助に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、利用者との時間をゆっくりと過ごしてもらい、日頃の利用者について、近況を伝え、情報共有に努めている。又、毎月の広報紙により、利用者の様子を伝え、ご家族の安心に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の生活歴や入居時の情報として、馴染みの場所や人について、職員間で情報共有し、外出やドライブの際に、声掛けをして、懐かしんでもらう機会を作り、又、その事をテーマに、コミュニケーション等を図る事を大切にしている。	ホームは入居者本人がこれまで大事にかかわってきた繋がりを継続できるよう家族や知人の面会を温かく迎え入れるよう努めている。職員は入居者の心情を察知するよう努め、時には本人と家族との架け橋となることにより本人と家族の時間が持てるよう働きかけに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のらしさや性格等を把握し、入居者同士の関わりが持てるよう、工夫をし、孤立感を持たせる事無く、適度なコミュニケーションが取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、近況のお尋ねや相談に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の意向が聞きとれる場合は、しっかり受取り、伝達が不可能な方は、生活の習慣や癖、行動から推測し、対応に取り組んでいる。	入居者それぞれの慣れ親しんだ生活が守られるよう、職員はその方の言葉や表情で心情を理解するよう努めている。入居者からの意見・要望に対し柔軟な対応を行い、入居者目線で暮らしを支えている。日常生活において消極的だった方が車椅子を購入したことによって表情が改善された事例もあり、入居者が抱える生活上の悩みについて家族と話し合いながらその方の暮らし方やこだわりへの理解に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご本人の生活ぶり、状況について、丁寧に聴取し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活の中で、入居者の変化を敏感に捉えることが出来るよう、個々の状態把握に努めている。又、定期的に身体機能の評価を理学療法士が実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット毎に、利用者のカンファレンスを開き、介護計画に変更がないか検討し、必要に応じて、ケアの方針を本人、家族、計画作成者と話し合い、本にとってより良い介護計画になるよう努めている。	計画作成担当者は、定例会やミーティングにおいて入居者の状況を把握し、暮らしぶりや生活の困難さを家族や職員と話し合いながら介護計画の作成に繋げている。介護記録にはその日の表情や言葉が具体的に記録され、定期的な評価や実践状況を確認しながら次回計画作成に向け取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、申し送りノート、カルテに日々の記録を行い、気づきや変更点については、職員間の情報共有を行い、対策が必要な場合は、管理者、計画作成者と連携し、対応する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活で発生した問題点や検討すべき点に対して、家族の意見も聞き、介護計画に反映している。医療的な問題が発生した場合は、主治医の意見に沿って対応し、必要なサービスは取り入れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園や、地元で活躍するボランティア団体による事業所訪問を得て、入居者との交流を積極的に図り、地域住民とは、日頃の散歩活動から挨拶、声掛けをいただく事により、交流を図ることが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の訪問診療、定期的な診察を受ける事により、かかりつけ医との連携は取れている。緊急事態発生の場合は、かかりつけ医と連携を取り、適切な医療に繋がれる体制がある。	入居者は母体の医療機関を主治医に持ち、急変時をはじめとした入居者の小さな体調変化にも早急に相談を行うことや治療を受けることができる環境が整備されている。入院中も医療連携室と連携を図りながら状態把握に努め早期退院に向けた取り組みがあるほか、主治医が認知症専門医であることから内服薬や心身の変化にも状態に応じながら調整が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職共に、入居者の体調管理について把握に努め、医療行為が必要と判断される場合は、看護師が医療機関への連絡を行い、適切な対応が出来る体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の病状説明に同席し、連携を取っている。入院中は、状況によっては、入居者の様子把握に病院を訪問する事もある。必要な情報については、病院関係者と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期における家族の意向を聴取し、のちにそのような状況が発生した場合は、事業所の対応として看取りがあることを伝え、医療機関を交えた説明と、意向の確認を行っている。	ホームでは看取りの指針や同意書が準備されており、入居者の状態変化や治療に対する家族の意向をその都度確認しながら看取りに向けた対応方法の共有に取り組まれている。職員は看護師を中心に倫理観や今後見込まれる入居者の状態変化について学ぶ研修を受け、家族が納得できる別れの場面を支えつつその人らしい最期を過ごすことができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変に備えて、状況に合わせどのような対応が必要なのか、緊急連絡網の活用も含め看護師による応急手当の勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練を実施している。消防署指導の下、防火責任者の進行に沿い、火元の発生場所を変える工夫で、避難経路の確認を行っている。地域住民の協力が得られる体制を取っている。大雨洪水警報が出た際の対応についても、職員が一丸となって対応できる体制が出来ている。	定期的に行われる火災訓練では、新規採用職員を中心に職員全員が初期消火をはじめ避難誘導が体得できるよう努めている。ホームはハザードマップ上土砂災害区域に一部含まれており、今年度は大雨特別警報発令に伴い敷地内別棟に一時避難を実践した事例がある。備蓄品の保管場所や入居者のベッドの配置など職員が主体的に対応し、入居者の不安時の対応など振り返りを行いながら次回対応に向けた話し合いが持たれている。	ホームは現在自衛消防の意識を高く持ち母体の協力も得ながら入居者の安全確保に対応する意向にあるが、夜間など最小限の人員配置での発災時には地域からの協力も必須と考えられる。火災発生や風水害を想定した訓練の見学など地域の理解と協力を働きかけ、防災を通じた地域との更なる繋がりを深める取り組みに今後期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	食事、入浴、排泄時は特に、入居者個人の尊厳を守り、プライバシーや誇りが損なわれない様、最善の対応が出来るよう、声掛け等には、十分に配慮をして対応している。	職員は入居者の尊厳を損なわないよう言葉の暴力や接遇マナーに注意を払いながら日々の支援に努めている。また、外部研修に参加することにより支援におけるスキルの向上に努め、言葉遣いや支援における職員の姿勢など入居者が安心して接することができる人材の育成に取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や訴えに耳を傾け、利用者の思いをしっかりと受け取れるよう、働きかけを行い、介護者からの安易な提案を避け、利用者自らが決定出来るよう支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調により、入居者の希望が変わる場合もある。介護職は、焦らずゆっくりと入居者の希望に耳を傾け、拒否がある場合は、強要しない事を念頭に、気持ち良く過ごされる事を支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の希望者には、2ヵ月に1回、女性の化粧等の希望があれば応えている。服の選択については、1人で出来ない方へは、声掛けをしながら、一緒に選んで支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、配膳や片付けの手伝いをお願いしている。食事の好みは凡そ把握しているが、通常の食事以外のイベント食などで、楽しんでもらう機会を設けている。	ホームでは入居者の身体状況に応じた食器や食事形態が準備され、彩りよく盛り付けられた献立や会話が楽しく雰囲気により入居者が自分から箸をすすめるきっかけにも繋がっている。天候を見ながら庭先でのランチ会開催や畑で採れた芋を使った菓子作りなど、入居者ができる範囲で参加できるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量に関しては、毎回状況把握を行い、体調管理に繋げている。利用者により、管理栄養士による評価を受け、栄養摂取に力を入れているケースもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、利用者の能力を削がない支援を行っている。希望や必要性に合せて、歯科衛生士による口腔ケアを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力を大切に、出来るだけ自身で排泄が出来るような支援を心がけている。	職員はトイレでの排泄を大事に捉えており、怪我や治療などの理由で一時的にカテーテルやオムツの使用となった場合でも主治医や看護師と相談しながらできるだけトイレでの排泄できるよう取り組まれている。母体リハビリ担当者より日常生活動作の助言を受けることも可能であり、専門的な視点から本人が持つ身体機能を生かした支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせたコントロールプランを念頭に、体調変化にも柔軟に対応できる対策をしている。乳製品の取り入れなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回実施している。入浴前は個々の体調把握や希望を行い、強制的な実施にならないよう努めている。気持ち良く入浴して頂ける事を支援している。	職員は入居者の心身の状態に応じた方法で入浴を支援し、入浴に対して負のイメージを与えないよう努めている。入浴前には入居者と一緒に衣類の準備をしながら入浴日である意識付けを行い、職員は尊厳の観点からも他人の目が入って欲しくない領域であることを理解し、自力では困難な部分を本人に確認しながら介助を行うなどケアの統一を図った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の1日の過ごし方を把握し、午睡や入眠時間は、利用者の希望を優先している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については、職員全員が、薬の目的、副作用、用法等について十分な理解とは言えないが、体調の変化による服薬の変更、変更後の観察、服薬介助等確認、チェック表を設け管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出を好む入居者には、ドライブの支援。手作業、テレビ鑑賞等、室内での活動を希望される方へは、個々の好みに合わせ、職員が柔軟に対応している。番組の録画等、希望を聞き対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事として、事業所全体での外出を企画したり、しているが、回数としては、年に1回程度であり、日常的には、数人単位でのドライブを企画する事が多い。ご家族による外出、食事等もあり、入居者の楽しみに繋がっている。	ホーム全体での外出の機会の頻度は少なくなっているが、移動による負担から外出を億劫に感じ外出が少なくなりがちな入居者の心情を理解し、少人数でのドライブを企画されている。個別に対応することでゆったりとした時間が確保でき、入居者の生き方やどのような立場で仕事してきたのか触れる機会にも繋がり、更なる理解にも繋がっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、事業所内でのトラブルを避ける事を優先し、原則行っていないが、要求するものが明らかに本人の希望である場合は、ご家族へ相談し、了解を得、購入する方向で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話希望には積極的に対応している。又、ご家族からの電話にも、本人へ取り次ぎ連絡が取り易い環境づくりに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの描画のレイアウトに土江は、季節感を感じて頂けるよう工夫している。天気が良い日は、ランチをに庭先で実施したり、ベランダでお茶を楽しんだり、日光を浴びる時間も大事にし、日々の生活の中に、少しずつの変化を楽しめるよう工夫している。	ホームは職員の丁寧な手入れによって清潔感や空調が整っており、車椅子を利用される方も自力で安全に自由に行き来できるよう家具の配置の配慮もなされている。ホーム眼下には住み慣れた街並みを眺めることができ、日当たりのよい空間で入居者がお互いの存在を確認しながら、窓越しに見える景色を共有できるよう寛げる空間が準備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で、楽しく過ごしてもらう工夫として、室内のレイアウトを変更したり、食事の席替えを行ったり、一緒に過ごしている入居者には、席を近くに配慮する等対応している。1人になりたい方は、居室で過ごされる場合が多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人が大切に持参したいものは、居室に配置し、使い慣れた物や写真、好みのものを使って頂けるよう対応している。	居室には写真や手回り品の持ち込みがあり、本人が入居前に過ごしてきた生活に近い部屋となるよう、職員は家族と話し合いながら住環境の整備に取り組んでいる。その人らしい色使いや飾り付けによって家庭的な雰囲気を作り出し、本人が使いやすい高さや動線を考慮した家具の設置によって、入居者が思い思いに寛いで過ごせる空間づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から、トイレ、浴室、共有スペース等、入居者が利用しやすいよう、動線を示し、出来るだけ自立して行動出来るよう、支援している。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	清潔で明るい環境、笑顔と優しさが溢れるスタッフ、入居者のペースで楽しく過ごせる様に支援する、を理念とし、常に安心安全の生活環境が提供出来る事をモットーに職員一丸となって業務を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2カ月の一度の運営推進会議に町内の会長様を始め常時3名の方に参加いただいております、事業所運営に理解を頂いている。又、町内回覧、ごみ当番や事業所内イベントへの案内等を通し、地域密着型の施設として、地域交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区公民館を活用した敬老会及びランチ会等の実施に当たり、地域の方の協力を得ており、運営推進会議を通して認知症の方への理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束適正化委員会の報告及び事業所内でのヒヤリ・ハット、事故等の報告を毎回実施する事で事業所の取り組みについて具体的に説明し市職員、地域住民からの意見を参考に、業務に生かす事が出来ている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2カ月に1度の運営推進会議の開催、認知症グループホーム連絡協議会の出席を通じ、事業所の実情を報告し、意見をいただく事で、現場運営に生かし、協力関係構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会の定期的な開催に伴い職員への情報共有と、A棟B棟合同定例会の開催時に研修を実施している。職員全員が「身体拘束をしない介護」に向けて、最大限の努力を行い、サービスの質の向上に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者事業所における「虐待とは」の理解を深める為、看護師を中心に、勉強会の開催を行い、業務中の如何いう事が虐待に当たるのかを徹底して理解し、業務中の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所全体として、十分に理解できているとは言えない。合同定例会時に、制度理解の為に資料を作成し、ご家族への説明を含め、今後の課題としたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、関係書類の丁寧な説明と、事業所利用にあたっての細部について、利用者、ご家族の安心に繋がるような説明を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、苦情、意見等の受付窓口があることを伝え、常時受入体制がある事を説明している。訪問時、頂いた意見については、職員間で検討、情報共有し、現場運営に生かしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会を通じ、意見、提案の共有を行い、検討したうえで、運営に生かしている。個々の職員については、年に2回の面談を行い、新人職員については、1年間を通じて小まめに面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から、職員が意見を出しやすい環境づくり、職員把握に努めている。勤務態度や言動、態度には、関心を持ち、働き易い職場環境に努めている。待遇改善については、毎年の人事考課により業務評価を行い、待遇に反映出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市、及び関連事業所からの研修案内を生かし、職員の意向を聴取した上で、研修参加を実施している。又、母体である病院から、リハビリスタッフの協力により、勉強会を実施し、介護職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会(管理者)、各駅停車(職員)への参加を行い、情報交換を行い、運営に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の情報収集を行い、状況把握に努め、入居者の嗜好を大切にし、自分らしく安心して生活できるよう、日々の状態観察を怠らず、適切な支援を行う事により、入居者との関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の訪問時やイベント開催の参加時に、ご家族に寄り添い、要望、困りごと等について伺い、利用者のより良い支援に向けて共に話し合い、理解を得られるよう、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規サービスを導入する際は、入居者にとって必要なサービスであるかを見極め、ご家族の理解を得た上で、サービス導入に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のレクリエーション、体操、散歩等を通して、共に生活している実感を得てもらい、可能な限り相互のコミュニケーションが取れるよう、職員が介助に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、利用者との時間をゆっくりと過ごしてもらい、日頃の利用者について、近況を伝え、情報共有に努めている。又、毎月の広報紙により、利用者の様子を伝え、ご家族の安心に繋げている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の生活歴や入居時の情報として、馴染みの場所や人について、職員間で情報共有し、外出やドライブの際に、声掛けしをして、懐かしんでもらう機会を作り、又、その事をテーマに、コミュニケーション等を図る事を大切にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のらしさや性格等を把握し、入居者同士の関わりが持てるよう、工夫をし、孤立感を持たせる事無く、適度なコミュニケーションが取れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、近況のお尋ねや相談に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の意向が聞きとれる場合は、しっかり受取り、伝達が不可能な方は、生活の習慣や癖、行動から推測し、対応に取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご本人の生活ぶり、状況について、丁寧に聴取し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活の中で、入居者の変化を敏感に捉えることが出来るよう、個々の状態把握に努めている。又、定期的に身体機能の評価を理学療法士が実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット毎に、利用者のカンファレンスを開き、介護計画に変更がないか検討し、必要に応じて、ケアの方針を本人、家族、計画作成者と話し合い、本にとってより良い介護計画になるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、申し送りノート、カルテに日々の記録を行い、気づきや変更点については、職員間の情報共有を行い、対策が必要な場合は、管理者、計画作成者と連携し、対応する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活で発生した問題点や検討すべき点に対して、家族の意見も聞き、介護計画に反映している。医療的な問題が発生した場合は、主治医の意見に沿って対応し、必要なサービスは取り入れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園や、地元で活躍するボランティア団体による事業所訪問を得て、入居者との交流を積極的に図り、地域住民とは、日頃の散歩活動から挨拶、声掛けをいただく事により、交流を図ることが出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の訪問診療、定期的な診察を受ける事により、かかりつけ医との連携は取れている。緊急事態発生の場合は、かかりつけ医と連携を取り、適切な医療に繋がられる体制がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職、看護職共に、入居者の体調管理について把握に努め、医療行為が必要と判断される場合は、看護師が医療機関への連絡を行い、適切な対応が出来る体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の病状説明に同席し、連携を取っている。入院中は、状況によっては、入居者の様子把握に病院を訪問する事もある。必要な情報については、病院関係者と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化や終末期における家族の意向を聴取し、のちにそのような状況が発生した場合は、事業所の対応として看取りがあることを伝え、医療機関を交えた説明と、意向の確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変に備えて、状況に合わせどのような対応が必要なのか、緊急連絡網の活用も含め看護師による応急手当の勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練を実施している。消防署指導の下、防火責任者の進行に沿い、火元の発生場所を変える工夫で、避難経路の確認を行っている。地域住民の協力が得られる体制を取っている。大雨洪水警報が出た際の対応についても、職員が一丸となって対応できる体制が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	食事、入浴、排泄時は特に、入居者個人の尊厳を守り、プライバシーや誇りが損なわれない様、最善の対応が出来るよう、声掛け等には、十分に配慮をして対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や訴えに耳を傾け、利用者の思いをしっかり受け取れるよう、働きかけを行い、介護者からの安易な提案を避け、利用者自らが決定出来るよう支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調により、入居者の希望が変わる場合もある。介護職は、焦らずゆっくりと入居者の希望に耳を傾け、拒否がある場合は、強要しない事を念頭に、気持ち良く過ごされる事を支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の希望者には、2カ月に1回、女性の化粧等の希望があれば応えている。服の選択については、1人で出来ない方へは、声掛けをしながら、一緒に選んで支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、配膳や片付けの手伝いをお願いしている。食事の好みは凡そ把握しているが、通常の食事以外のイベント食などで、楽しんでもらう機会を設けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量に関しては、毎回状況把握を行い、体調管理に繋げている。利用者により、管理栄養士による評価を受け、栄養摂取に力を入れているケースもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、利用者の能力を削がない支援を行っている。希望や必要性に合わせて、歯科衛生士による口腔ケアを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力を大切に、出来るだけ自身で排泄が出来るような支援を心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせたコントロールプランを念頭に、体調変化にも柔軟に対応できる対策をしている。乳製品の取り入れなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回実施している。入浴前は個々の体調把握や希望を行い、強制的な実施にならないよう努めている。気持ち良く入浴して頂ける事を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の1日の過ごし方を把握し、午睡や入眠時間は、利用者の希望を優先している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援については、職員全員が、薬の目的、副作用、用法等について十分な理解とは言えないが、体調の変化による服薬の変更、変更後の観察、服薬介助等確認、チェック表を設け管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出を好む入居者には、ドライブの支援。手作業、テレビ鑑賞等、室内での活動を希望される方へは、個々の好みに合わせ、職員が柔軟に対応している。番組の録画等、希望を聞き対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事として、事業所全体での外出を企画したり、しているが、回数としては、年に1回程度であり、日常的には、数人単位でのドライブを企画する事が多い。ご家族による外出、食事等もあり、入居者の楽しみに繋がっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、事業所内でのトラブルを避ける事を優先し、原則行っていないが、要求するものが明らかに本人の希望である場合は、ご家族へ相談し、了解を得、購入する方向で対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話希望には積極的に対応している。又、ご家族からの電話にも、本人へ取り次ぎ連絡が取り易い環境づくりに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの描画のレイアウトに土江は、季節感を感じて頂けるよう工夫している。天気が良い日は、ランチをに庭先で実施したり、ベランダでお茶を楽しんだり、日光を浴びる時間も大事にし、日々の生活の中に、少しづつの変化を楽しめるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの中で、楽しく過ごしてもらおう工夫として、室内のレイアウトを変更したり、食事の席替えを行ったり、一緒に過ごしている入居者には、席を近くに配慮する等対応している。1人になりたい方は、居室で過ごされる場合が多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご本人が大切に持参したいものは、居室に配置し、使い慣れた物や写真、好みのもを使って頂けるよう対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	居室から、トイレ、浴室、共有スペース等、入居者が利用しやすいよう、動線を示し、出来るだけ自立して行動出来るよう、支援している。		